



資料

H5N1 型鳥インフルエンザ（バードフルー）の集団発生

2003~04 年鳥インフルエンザの集団発生

通常「バードフルー」と呼ばれる鳥インフルエンザはアジア諸国の鳥類に影響を及ぼしています。今回の集団発生はA型インフルエンザのH5N1亜型によるもので、ヒトへの感染発症例も報告されています。

- **鳥:** A (H5N1) 型インフルエンザの集団発生がアジア諸国にて確認されています。詳細は世界動物衛生機関 (World Organization for Animal Health) のウェブサイト <http://www.oie.int> をご覧ください。
- **ヒト:** 鳥インフルエンザの集団発生によるヒトへのH5N1型感染が確認され、死亡者(複数)も報告されました。現時点ではこれらの症例は感染した鳥やその排泄物で汚れた表面に接触した結果によるものと考えられています。ヒトの感染経路については現在調査中です。
詳細は世界保健機構(WHO)のウェブサイト <http://www.who.int/en/> をご覧ください。

A (H5N1)型インフルエンザに関する情報

- **背景:** A (H5N1) 型インフルエンザは A 型インフルエンザの亜型ウイルスです。野鳥はこのウイルスの自然宿主であるため、鳥インフルエンザ又はバードフルーと呼ばれています。1961年に南アフリカ共和国で鳥(アジサシ)からこのウイルスが初めて分離されました。世界各地の鳥類の間で感染がみられ、また、鳥の間では伝染力が強く、特に鶏のような家禽類にとっては致死的なウイルスです。
- **感染:** このウイルスは通常ヒトには感染しません。しかし、1997年、香港の家禽類の間での鳥インフルエンザの集団発生時にH5N1型ウイルスの鳥からヒトへの直接感染の最初のケースが報告されました。同ウイルスにより18名が重度の呼吸器疾患にかかり、そのうち6名が死亡しました。その後、H5N1のヒトの間での感染発症例が報告されており(「[鳥インフルエンザに関する基本的情報](#)」参照)が、今の所H5N1ウイルスのヒトからヒトへの感染力は強くありません。この点は現在注意深く監視、調査中です。
- **感染の拡大:** 感染した鳥の唾液、鼻分泌液、糞の中にウイルスが潜んでおり、感染しやすい鳥が既に感染した鳥の汚物に接触すると鳥インフルエンザウイルスの感染が広がります。H5N1のヒト感染の殆どのケースは感染した家禽類又は汚物表面との接触から生じたものと考えられています。

現在の H5N1 株

現在の集団発生に関係があるとされるH5N1株の遺伝子配列が特定されました。下記の点が現在までに分かっている事項の要旨です。

- 全ての遺伝子は鳥が起因となっています。これは、同ウイルスはヒトのインフルエンザウイルスから遺伝子を得たものではなく、ヒトからヒトへの感染するようには進化変異していないことを意味しています。
- 今回は、異なった種類のH5N1ウイルス感染の可能性があります。韓国とベトナムで採取したウイルス検体の遺伝子配列は多少異なっています。
- ベトナムのヒト発症例のA (H5N1)型ウイルス検体の遺伝子配列は、インフルエンザに通常用いられている抗ウイルス剤のうちアマンタジンとリマンタジンの二つの抗ウイルス剤に抵抗を示しています。残りの二つの抗ウイルス剤(オセルタマビルとザナビル<鼻腔内噴霧剤>)はH5N1株に対して依然効果的です。

2004年1月30日

1 頁目 (頁数: 2)

封じ込め策

病気の鳥及びその周囲にいる鳥を淘汰（処分）することが集団発生を封じ込める上で重要です。香港では1997年にH5N1集団発生を封じ込めるためにこのような処置が取られました。多くの専門家はこの処置はヒトへの大規模な感染を防ぐためには重要と指摘しています。現在の集団発生に対応し、アジアの諸政府はウイルスを封じ込むために家禽類を処分しています。患者は治療を受け、隔離され、感染経路の解明のため現在調査が進められています。

何が起こるか？

全ての種類のインフルエンザウイルスは変異可能であり、鳥インフルエンザウイルスも〔鳥類から〕ヒトへ感染し、ヒトからヒトへ容易にうつり感染が広がることは可能です。これらのウイルスは普通ヒトへは感染しないため、ヒトには同ウイルスに対する免疫が殆ど又は全くありません。鳥ウイルスがヒトへ感染し、ヒトからヒトへ容易に感染すると「インフルエンザパンデミック（世界的大流行）」が始まります。

集団発生に対する CDC の対応

CDC は WHO 及びその他のパートナーと緊密に協力してこの集団発生に取り組んでいます。CDC の主な活動内容は次の通りです。

- CDC の緊急オペレーションセンターでは 24 時間体制で連絡調整と対応を行っています。
- ヒトと動物の間の感染発生の範囲を査定し、ヒト感染のリスク要因を特定し、ヒト及び家禽類の発症例から分離された A (H5N1)型ウイルスによるインフルエンザの特長を判定するために、ベトナム衛生当局（ヒト及び動物感染担当）と協力して調査を行う在ベトナム WHO 調査チームにスタッフを 6 名配置（疫学者、研究所員、データ管理者）しております。
- WHO グローバル・インフルエンザ・ネットワークの 4 つの WHO 連携センターの 1 つとして、CDC の研究所では最近の H5N1 ウイルスを他の鳥インフルエンザウイルスと比較し、その特長を判定するためにアジアで採取された検体について様々なテストを実施しています。このデータは現状対策としての H5 ワクチン開発に必要です。
- CDC の WHO 連携センターでは H5N1 ウイルスを検出できる試薬キットを開発中です。完成後はアジア、米国、その他地域に配給する予定です。

CDC 勧告

旅行者: CDC では、H5N1の集団発生が報告されたアジア諸国へ渡航する際は、養鶏場を避け、生きた家禽類を売る食料市場の動物との接触、家禽類その他動物の糞で汚染されているように見える表面との一切の接触を避けるよう勧告します。詳細はCDCのウェブサイト<http://www.cdc.gov/travel/>の旅行者の健康衛生についてのページをご覧ください。

保健衛生部署及び保健医療専門家: CDCでは米国内にH5N1型インフルエンザが入り込んだ可能性を特定するためのサーベイランス（監視体制）と検査に関する中間ガイダンスを米国内の保健衛生部署に提供しております。（これらの勧告についての詳細は、CDCのインフルエンザに関するウェブサイトをご覧ください。）

詳細に関しては、www.cdc.gov/flu 又はhttp://www.who.int/csr/disease/avian_influenza/en/をご覧ください。

また、CDC の一般利用者向けホットライン (888) 246-2675 (英語)、(888) 246-2857 (スペイン語)、

(866) 874-2646 (TTY)にても情報を提供しております。

2004 年 1 月 30 日

2 頁目 (頁数: 2)

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES
CENTERS FOR DISEASE CONTROL AND PREVENTION

SAFER • HEALTHIER • PEOPLE™

保健社会福祉省

疾病管理予防センター

より安全で健康な人々